

やまきたまち 議会 だより

議会のおと

P 2 ~ 3 …水道料金改定案を可決 P 4 ~ 5 …定数削減請願を不採択

P10 …ホームページをリニューアル



三世代で楽しむ共和地区ゲートボール大会(関連記事は裏表紙に)

水道料



値上げは4月1 日から 平均 10.54%の値上げ

給水人口の減少や、 施設の老朽化による更新が必要となっている。

山北町水道事業運営審議会 今後も安全でおいしい水を安定供給していくため、 の答申を受け、料金改定案が提出され、 審議の結果、 全員賛成で可決した。

○山北町税条例

に入っていない。

備投資を促すための課税措置割 地方税軽減措置として、固定資 計配偶者」に文言を改める。 合見直しと、条文の整理。 産税軽減を行い、優遇により設 「控除対象配偶者」を「同一生

○山北町水道事業給水条例

定を行う。引き上げは7月請求 ため、条例を一部改正し料金改 給水人口減、施設老朽化等の

遮断弁の更新設計を行っている。 画として、安洞地区施設改修、 修は、これに含まれているのか。 後の改修の予定は。 急速濾過装置改修は、 深沢地区改修設計、皆瀬川緊急 上下水道課長 34年度までの計 また皆瀬川の急速濾過装置改 この計画

職員の意向はどうなるのか。 適正判断をしている。職員の意 総務防災課長理事者が面接し、 井上委員派遣の決定に際し、 向は重視している。

例を制定するもの。 の処遇は同一でなかった。派遣 がない事で問題があったか。 律が制定され、これに基づき条 先の処遇を同一にするため、 **総務防災課長** 今まで派遣職員 瀬戸(恵)委員 今までこの条例 法

の制定 等への派遣等に関する条例 ○山北町職員の公益的法人

ため制定するもの。 遣等に関する必要事項を定める **務環境常任委員会に付託され、** 新規条例制定は、 町職員の公益的法人等への派 本会議で総

老朽化した施設の今

ので、自治法での派遣になる。 総務防災課長 地方公共団体な

結果、全員賛成で了承された。 以上で質疑を終了し、採決の

まれないということか。 派遣は、派遣法による算入に含 められている。給与等は、協定 総務防災課長 明記がないが支障はないのか。 滕原委員 けられるということである。 様に地方公務員の災害補償が受 と見なすとはどういうことか。 において就いていた業務を公務 川村委員 小栗委員 小田原市消防等への で細かに定めていく考えである。 **総務防災課長** 町職員の時と同 派遣期間、 第5条の派遣先団体 期間は法律で定 給与等の、



○小田原市斎場に係る事務の 委託に関する協議

賛成で可決した。 31年7月より開始される。小田 するための規約を審議し、 ることに関し、小田原市と協議 理及び執行を小田原市に委託す 原市における山北町の事務の管 新しい小田原市斎場の使用が 全員

想定していない。 環境課長 今の段階では、特に 経費とは何を想定しているのか 協議して定めるとある。特別な **滕原議員** 特別な経費が生じる 山北町長と小田原市長が

○一般会計

歳入歳出それぞれ330万円

費負担金113万円、福祉施設 主な歳入は、障害児施設給付

> 基金繰入金130万円等。 主な歳出は、東山北駅駐輪

場監視カメラ設置工事費32万 785万円、認定こども園費 405万円等。 町税賦課徴収事業過誤納金

過誤納金の原因は

策は。 小栗議員 過誤納金の原因と対

たのか。

対応する。 職員により、二重にチェックし 課税していたため。今後複数の 計画決定したものを宅地として 町民税務課長 昭和53年に都市

給食調理員の増は

厳しいので、一人増員した。 ということで今までの人員では 福祉課長 アレルギー対策強化 業の給食調理員賃金増の理由は。 鈴木議員 認定こども園運営事

○介護保険事業特別会計

地域支援事業89万円の増額補正。 配食利用者の人数は

業の配食利用者が300円個人 瀬戸(恵)委員 負担している事業は、何人増え 地域自立支援事

が9人増えているが、 数というわけではない。 単価で委託しており、当初27人 保険健康課長 1食840円の

第4回臨時会

11月20日

般会計補正予算

の補正。 人事異動にともなう、 人件費

○専決処分の承認

台風24号災害復旧費等の補正。 般会計補正予算 やまきた 議会だより 平成 31 年 2 月 No. 196

請願

情報発信は可能。

を使えば、過疎の地域でも

)今日の発達した通信機能

請願第5号

「山北町議会議員の定数 2 名削減と

願者より意見陳述があった。

請願審査に入る前に、請

来春4月の町議会議員選挙の実施を目指すことを求める」請願書

「山北町議会議員定数2名削減と2期8年の無投票を許さない会」 請願者

> 髙橋 代表 庸祐

紹介議員 原 憲司

なった。

る署名が400名あまりに

)現時点で、本請願に対す

連営に支障はない。

)少ない議員定数でも議会

月16日~30日の15日間で以上の内容について、8 意見陳述趣旨 127名の署名を集めた。 選挙の実施を求める

〇来春4月の町議会議員 定数2名削減

請願文書趣旨 〇山北町議会議員の

山北町議会議員の定数2名削減と来春4月の町議会議員選挙の実施を 目指すことを求める請願に関する特別委員会を設置し審議した 委員長 瀬戸顯弘 副委員長 鈴木 登志子 議長を除く議員 13名 貞 意見陳述する 請願者 髙橋 庸祐氏

審査経過

12名にすると選

う考えである。 より、あった方がいいとい 明をしていない。 **原議員** そうした部分は説 町民としては選挙がない

に説明したのか。

れば、新しい議会議員を構

築していくべきである。

れない。 として、代表者や周辺町民 たら必ず選挙になるのでは。 名以上の方から立候補され ことを求めるのであれば、 原議員 定数12名になれば 挙になるという根拠は。 本請願に署名にした300 小栗委員 必ず選挙になるとは言い切 そうしたことを紹介議員 来春選挙にする

議員の役割である。 町民の声を聴くのが本来の 内全地域の課題を把握し、 原議員 議会議員として町 現状できていないのであ

題対応が出来なくなるので ともに対応策を図っている。 はないか。 と、今より山北全地域の課 域特有の課題を地元町民と 鳥獣被害や自然災害など地 定数減で少ない人数になる

4

痛みを伴う時期にきている。

するべき。

12名となっても議会運営

を踏まえ、

議員も自らを律人口減、財政減

財政減

している。議員定数も減ら

行政改革と議会改革は違

定数は現状通りでいい。

人口も財政も減少

描くために現状の14名が適 視野でグランドデザインを

川村委員

きである。

間の議会活動、 革を進めてきて、この4年 **熊澤委員** これまで議会改 が一番活発であった。 **滕原委員** 定数12名になっ 数が適当であると考える。 務めていく上で、現状の人 今後も町民の福祉向上を

ても議会運営は可能と思う 瀬戸(恵)委員 定数を削減 ではないか。 を進めていく必要があるの デアを出し合いまちづくり 議会力低下を防ぐために サポータ制度などアイ

し、12名でも議会運営を効 **庄野委員** 多くの方が本請 願に署名いただいている。 方たちから立候補してもら 選挙にするためには、 上支障はないと考える。

その

鈴木委員 いたい。 請願趣旨が2本

柱で不明確であった。 に話し合いをするべき。 議員は請願者ともっと事前 紹介

井上委員 町民が議会に対 してくれることは本当にあ し、こうして真剣に請願を

がいい。ただ、定数を減ら

議会の質が落ちるのは

いかがなものか。

井上委員 選挙はあった方

考えていけばいいのでは。

必要である。

すると思う。現状の14名が

率的に進めていくことを、

が、議会の質としては低下

くの町民の声を行政に届け、 を省き、効率的な組織をつ いくこと。そのために今の よりよいまちづくりをして くること。議会改革は、多 小栗委員 行政改革は無駄 これからの議会改革として りがたい。定数議論よりも、 生懸命やっていない議員

の議論をしっかりとしてい はいらない。これが本音。 一生懸命とは何か。ここ

限は議会に属さない。

より多くの目と耳を持っ

き込んだ議論を進めてこな

ただ、これまで町民を巻

かったことは深く反省すべ

かなければならない。

会に求められても、

、その権

定数は必要である。

て町民の声を聴き、

大きな

児玉委員 選挙の実施を議

会の質を見ていると思う。

町民は選挙の有無より議

とと、定数を減らすことは 選挙を求めるこ 不採択とされた。 審査の結果、賛成少数で

特別委員会の詳細は 議会ホームページ→会議録 から閲覧できます



請願に

町民の声を届けるべき 瀬戸 恵津子

この請願は、議会が定数削減を決め、 選挙において無投票ではなく投票行為 ができる状況をつくってほしいという 趣旨である。選挙の実現を目指すとい う事は、自分たちも共に無投票になら ないよう努力するということ。

このような町民の声は、決してその ままにはできない。300名以上の署名 は一定の数値で形としてあらわれてい ると思い、本請願に賛成する。

現実を見るとやむを得ない 石田 照子

無投票の大きな要因は、なり手不足 である。それは、関心の持てる議会に してこなかった私たち議員の責任でも ある。

高齢化が進み、生産年齢人口も減少、 町税も 10 年連続減少している現実に 目を向けると、定数削減はやむを得な いと思い賛成する。

会議

請願に 対

強固な議会運営のために

児玉 洋一

この請願は「定数削減」と「選挙の実施を求める」 という2つの内容が混同している。

2名の定数削減については、前回定例会でも、定 数削減条例が発議されたが、否決された。

選挙の実施を求める請願は、定数2名削減すれば 必ず選挙になるのか、不確定要素が高く、議会が判 断できる内容ではない。「選挙を求める」のであれば、 必ず選挙になるように多くの候補者が出たら解決す ること。

大きな視野を持ち、グランドデザインを描くには、 経費や定数削減、選挙のためだけではなく、町の将 来を見据え、より強固な議会運営をしていかなくて はならない。以上のことから、本請願には反対する。

12 名の具体的理由が不明確

鈴木 登志子

定数 12 名の具体的理由が見当たらない。議会の 役割が何人であればいいのかこれまで検討・議論を 重ねてきた。

山北町の課題が山積している現時点では、将来を 見据えた議論ができる議員定数が必要であると思 い、反対する。



県外視察 Report



「山梨県内で つの市町村を視察」

地利用としての太陽光大

て、ジビエの活用と、土

に続き鳥獣被害対策とし

総務委員会では、昨年

規模発電所、交通網体系

明を受けました。 に伺い、 甲府市、早川町、身延町 事業者から直接現場で説 行政職員、 民間

鳥獣被害対策と 太陽光発電所を視察

> 東電・山梨県協働 山梨県 太陽光発電・蓄電施設を視察 県と東京電力が共同事業で建設し たメガソーラー時代の先駆けの太 この発電所は、平成21年に山梨

甲府市

域雇用の参考になりました。 て、自然エネルギーの導入や、 活用や、山砂利採取跡地活用とし 山北町の土地利用、特に山間部 地

陽光発電所でした。

しました。

先進地である山梨県の

ドバスの運行現場を視察

として、身延町のデマン

次世代の水素蓄電池施設を視察

山梨県 早川町

山梨県ジビエ認定

第一号施設を視察

ムだと感じました。

理についてさらに研究が必要と参 ジビエ認定第一号」としました。 加者全員が感じました。 を満たしているとして、 した。 鹿肉に塩・胡椒のシンプル エ処理加工施設が、衛生管理基準 な味付けでしたが、癖があり、 店舗で、ジビエ定食を試食しま 山梨県畜産課は、 早川町のジビ 「山梨県 料



ジビエ/食肉加工施設を視察

町内デマンドバス 運行システムを視察

ではカバーできない集落がたくさ 行管理が行われていました。 名の商工会職員交代で予約等、 重要な行政課題でした。路線バス 疎高齢化が進み、公共交通確保が 入に際し、バス指令室を作り、 んあることから、デマンドバス導 身延町は山間に集落が点在し過 これは山北町にも有効なシステ 3 運



身延町乗り合いバス

らない事ばかりです。課題解決の ため、今まで行ってきた調査研究 これからすぐに検討しなければな を今後も続けていきます。 今回視察した施設は、 山北町が

山梨県

身延町

祉育

健康長寿のまちと 特色ある学校教育を学ぶ

健康長寿のまちづくり」宣言で 健康寿命 3年連続県内第一位

鳩山町

積極的な介護予防事業に取り組

康な高齢者が多い町という印象を で最も安く、健康づくりの結果が を記録する埼玉県鳩山町。 み、健康寿命3年連続県内第一位 数値として表れており、元気で健 国保医療費・介護給付費も県内

受けました。

取り組む姿勢が伺えました。 がら健康づくりや介護予防事業に 関による連携が機能し、楽しみな ア・企業・大学など多くの関係機 議会・社協・地域・ボランティ 康長寿のまち」宣言を掲げ、町・ こうした背景には、行政が「健



100 名を超える元気な高齢者が健康教室に参加する「鳩山町」

「村づくりは教育から」の基本

9 中学生による 海外派遣事業

群馬県

高山村

味深い取り組みでした。 ティアの関わりも非常に有効で興 果を挙げていました。 理念を掲げる群馬県高山村。 ら国際交流と人材育成に多大な成 様々な国庫補助金を活用しなが 海外生活経験のある地域ボラン

れていました。

だけではなく、関係機関を巻き込

どの自治体も、行政単独の考え

んだ組織体制がしっかりと整備さ



廃校舎の教室に芸術家たちが集う「中之条町」

群馬県 中之条町

廃校舎を活用し

芸術家の拠点に

画家や作家などのアーティストの ワークスペースとして活用してい 廃校となった小学校の各教室を

ビエンナーレ」は芸術文化の祭典 感じました。 住コーディネーターのアイデアと 機動力が結果に結びついていると として広く知れわたっています。 る群馬県中之条町。 2年に一度開催される「中之条 こうした仕掛けも行政と移住定

となりました。 の構築が必要であると感じた視察 山北町もこうした積極的な組織 やまきた 議会だより 平成 31 年 2 月 No. 196



委員会活動 Report

共同研究と

常任 委員会

委員長 小栗 直治

個別課題を調査

研究に入りました。その後、 共同研究と個別課題に分けて調査 で検討し、個別課題の中から委員 会全体のテーマとし、調査研究を 山北町全町の課題を拾いあげ、

全員共同調査研究項目

進めています。

- 鳥獸被害対策
- ・ 土地の利活用(山砂利跡地等の利用)
- ・御殿場線 I Cカード利用エリアの拡大
- · 町内交通網再構築

個別調査研究項目

- 県道道志線開発
- 秦野峠林道開通

先進地、

山梨県米倉山メガソ

県外視察は、新たな土地活用の

- ・つぶらの公園活用と拡充
- ・世附地区公共施設の活用、調査研究
- ・玄倉公共施設活用、テニスコート
- ・三保ダム広場利用、活用



商工会職員による運行管理

の受け入れ対策を視察しました。 ビエ認定第一号の処理施設の内容 と、ジビエ定食を試食しました。 ラー発電所の視察をしました。 ンドバス指令システムや、 観光客 交通網対策として身延町のデマ 局獣被害対策として、 早川町ジ

イノシシ管理計画等 多くの研修を実施

課職員に出向いてもらい、 イノシ

研修として、

神奈川県より担当

シ管理計画について説明を受け質



山北町の被害の実態を強く訴えた

理解を深めました。 ら説明を受けるなど、多くの研修 画の構造についても、担当課長か 問を交わすなど、 課題解決に向け を行いました。 方について、改めて学び、 また、決算議会前に決算書の見

問題解決に向け

山梨県を視察

平成 31 年 2 月 No. 196 やまきた 議会だより

行政との関わりを研究しました。

福祉 数管 常任 委員会



委員長 鈴木 登志子

町内ボランティア団体を視察し、 を「健康長寿のまちづくり」に絞 と課題抽出をしてきました。 から複数の項目をあげ、現状把握 年間、高齢者福祉と教育の分野 その中から、今年度活動テーマ 福祉教育常任委員会では、この 介護予防事業への取り組みや を進めるために

健康長寿のまちづくり

課題	考え方
健康づくりに対する町全体の意識改革	他市町と比較した健康寿命指標を作成して、 健康数値の見える化が必要
健康寿命延伸、未病改善への組織体制	町単独組織ではなく、各団体や企業、議会も 含めた官民連携の新しい組織体制が必要
ボランティア人材の確保	ボランティア養成講座など人材育成の拡充が 必要
広域連携で健康長寿への取り組み	県が推奨する「未病改善」をキーワードに県 西地域で連携した合同イベント開催などで普 及啓発が必要



えています。

費や医療費の抑制につながると考 寄りを増やし、結果的に介護給付 積極的な取り組みが、元気なお年 今後こうした介護予防事業への

題解決に努めます。 今後も継続して調査を進め、 課 です。 究を実施しました。 放課後の環境整備も、重要な課題 子どもたちが安心して過ごせる

利用児童増加による教室数の拡充 課後児童クラブの現地調査を行い、

また、教育分野においては、放

など、今後の運営に関わる調査研



川村小学校内にある「やまきた児童クラブ」

やまきた 議会だより 平成 31 年 2 月 No. 196

広報分科会委員は、

毎年都

委員会活動 Report



与えられた課題に 取り組む広報分科会の面々

やすい紙面づくりに取り組ん

今後も読み手により分かり

すい議会だより」を目指し研 内での広報研修会で「読みや 修を受けています。

報誌に」でした。課題に取 インの力で、もっと伝わる広 いデザインテクニックを学び る事で、読み手に分かりやす 組みながら考え、理解を深め 今年のポイントは、



デザインの力で伝わる広報に



広報研修会で得た成果は 議会だより編集に役立てています

議会ホームページが新しくなりました





議会だより HP $QR \supset -$

伴い新しくなりました。 リニューアルされました。 議会ホームページもそれに 12月から町ホームページが

けるようにしました。 を加え、議会の情報をご覧頂 住民の皆さんの声をうかが

い、より役立つホームページ

になるよう今後も努力してま

新しく新着情報、会議録等

議案等審議の結果

第4回臨時会(11月20日)

件名	月日	審議結果	件名	月日	審議結果
平成30年度山北町一般会計補正予算 (第4号)	11月20日	可決 (賛成全員)	専決処分の承認について(平成30 年度山北町一般会計補正予算(第3 号))	11月20日	承 認 (賛成全員)
平成30年度山北町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	11月20日	可 決 (賛成全員)			

第4回定例会(12月4日~10日)

件名	月日	審議結果	件名	月日	審議結果
山北町職員の公益的法人等への派遣 等に関する条例の制定について	12月10日	可決 (賛成全員)	平成30年度山北町介護保険事業特別 会計補正予算(第2号)	12月5日	可決 (賛成全員)
山北町税条例の一部を改正する条例 の制定について	12月5日	可決 (賛成全員)	小田原市斎場に係る事務の委託に関 する協議について	12月5日	可決 (賛成全員)
山北町水道事業給水条例の一部を改 正する条例の制定について	12月 5 日	可決 (賛成全員)	「山北町議会議員の定数2名削減と 来春4月の町議会議員選挙の実施を 目指すことを求める」請願書	12月10日	不採択 (賛成少数)
平成30年度山北町一般会計補正予算 (第5号)	12月 5 日	可決(賛成全員)	南足柄市外二ケ町組合議会議員の選 挙について	12月10日	指名推選
平成30年度山北町国民健康保険事業 特別会計補正予算(第3号)	12月 5 日	可決 (賛成全員)			

☆賛成・反対があった議案(第4回定例会)

議員名	3(議席順)	熊澤	藤原	井上	児玉	原	石田	瀬戸	瀬戸恵	鈴木登	小栗	川村	渡辺・	庄 野·
議案		友 子	浩	正文	洋一	憲司	照子	顯弘	恵津子	登志子	直治	俊治	良孝	京子
「山北町議会議員の定数2名削減と来春4」 選挙の実施を目指すことを求める」請願書	月の町議会議員	•	•	•	•	0	0	•	0	•	•	•	0	•

※○は賛成、●は反対を表しています。府川輝夫議長は、採決に加わりません。

町内各所で車座集会

町議会では、町内6会場でひざを突き合わせての車座による意見交換を行います。



【委員会活動報告】

☆総務環境常任委員会☆ 「鳥獣被害対策について・山北町の土地利用について」

☆福祉教育常任委員会☆「健康長寿のまちづくり」

【開催日時】

開催日	会場	時 間
2月4日(月)	三保支所	19:00 ~ 20:30
2月6日(水)	清水ふれあいセンター	19:00 ~ 20:30
2月8日(金)	生涯学習センター	19:00 ~ 20:30
2月12日(火)	共和のもりセンター	19:00 ~ 20:30
2月13日(水)	高齢者いきいきセンター	19:00 ~ 20:30
2月15日(金)	向原児童館	19:00 ~ 20:30

都合のつく会場へお越しください

【問合せ】議会事務局 75-3653 (直通)



ページ	質 問 事 項	質	問	議	員
13	ヒアリングループ(磁気誘導ループ)の導入を	庄	野	京	子
14	町の強みを活かし、活性化につなげる施策を	藤	原		浩
15	第5次総合計画前期を振り返って	石	田	照	子
16	第5次総合計画の向かう5か年計画は積極的に	渡	辺	良	孝
17	「健康長寿のまちづくり」の推進を	児	玉	洋	_
18	「元気な山北」の実現を	瀬	戸	恵津	津子
19	ヤマビル対策の充実を	井	上	正	文

「ヒアリングループ」(磁気誘導ループ)の導入を

他の自治体の導入事例を調査し検討



庄野京子 議員

ムである。

先進国では公共施設

の聞こえをサポートするシステ

ヒアリングループとは難聴者

高齢者の生活を支えていただき
 ブの導入をしていただき、難聴 用施設に移動式ヒアリングルー 固 高齢者の窓口や町民の利

難聴になると家庭の中でも、 難聴」になる人が増えている。 ともに聞こえが衰える「老人性 会的にも孤立しやすく、 認知症につな 引きこ · 社

がる心配がある。

もりがちになり、

置の形態としては、 などの面から現時点での導入は 修費が必要となることや、 ら設置する場合には、 された機器を卓上で使用する 更には、ループケーブルが内蔵 ケーブルを設置する「移動型」、 会議室等の必要な部分にループ ルを床下に埋蔵する「常設型」 時にあらかじめループ用ケーブ できるのが設置場所に限られる 常設型」は既存施設等に後か 対話型」 などがある。 建物の施工 多額の改 使用

磁気を補聴器や受信機が受けて

これは音声を磁気に変え、その

音声として聞くことが出来る。

や様々な場所に設置されている

などについて調査・研究を行い、 の自治体の導入事例や利用状況 必要としないことなどから、 難しい状況だが、 検討していきたい 「対話型」であれば改修工事も 「移動型」 他

まで拾ってしまうため、

多い所では聴きにくいこともあ

ると聞いている。

談事や各種申請時等に活用して

いるが、携帯助聴器は周囲の音

高齢化社会がすすみ、

年齢と

答

ヒアリングループの、 設 固

援対策は 町内の難聴者に対する支



ヒアリングループが設置 されているマーク

携帯助聴器使用

現在43人である。 聴の方は、 用のホワイトボードを備え、 声を拡大する携帯助聴器や筆談 ち身体障害者手帳が交付されて 口や健康福祉センターなどに音 にくい方のために、 いる老人性難聴も含めた高度難 現在、町では会議の聴きとり 本町の聴覚障がい者のう 平成30年11月1日 役場一階窓 相



携帯助聴器

町の強みを活かし、活性化につなげる施策を

民間事業者と協働し体験観光を提案する



浩 議員 藤原

観光は、

癒やし・撮るが加わっ

特産品に加え、今ある茶摘み体 を加えるべきでは。 験の他に、 固 カヌー体験等のプログラム ふるさと納税返礼品は、 D52運転体験やSU

には、

人材が足りない。

公的助

体

個

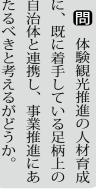
体験観光プログラム実践

促進すべきと考えるがどうか。 事業者と協同し観光体験事業を 行政はサポートに徹し、 民間

どうか。

験観光を促進すべきと考えるが 成等を用い人材育成を図り、

進めたい。 験観光を民間事業者と協働して めの外部専門家活用事業等を用 地域人材・資源を活用、 総務省の地域力創造のた



加えていく。

スポーツ体験等もメニューに、

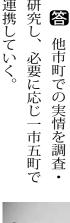
民間事業者と協働して、

な視点から、

体験型返礼品を提

ふるさと納税には、

色々



カヌ

・SUP 等の

体験プログラム商品化を



都圏で、自然と歴史文化等、 た体験観光に変化している。

豊富な山北町は、

体験観光に適

そこで次の提案をする。

体験観光指導者養成講習の様子

町施設の屋根に電力会社の経費 つと考えるがどうか。 活用できるため、 系統停電時には自立電源として の地産地消を図ったらどうか。 で太陽光パネルを設置し、 固 既存の電力契約を見直 防災にも役立 電気

え方で、 感をもって、 ネルギー活用を、 行っている。 情報収集と詳細な検討を エネルギー地産地 電力会社から提案を受 適切な再生可能エ 今後よりスピード 早急に進めて 消 の考

売電と災害時の非常時電源にできないか どうか。 とで小水力発電の導入を進める **八調査を始めるべきと考えるが** きでは。公的補助を活用し導 固 水路をを活用し、 地域ご





エネルギー活用を進めるべきでは 山北町の強みを活かし、再生可能 地域にある水路に、小水力発電装置を設置し 売電と災害時の非常時電源に活用可能か

事業主体をどうするか等、 進事例等調査、 小水力発電について、課題や先 スエネルギー導入を考えている。 小水力発電と木質バイオマ 再生可能エネルギーとし 公的補助活用、 検討

町施設の屋上に、太陽光パネルを設置し

第5次総合計画前期を振り返って

道路構想は分野別計画に位置付ける



石田照子 議員

子育て支援プロジェクト」を重

数値にするべきではないのか。

人口の増減を見込んだ数

10年ほどで立ち消えとなった。

た(仮称)小田原甲府線構想は

目標値であるため

|前期基本計画では「若者定住・

圕

人口目標は現実に即した

固

平成9年から研究してき

出せなかったことがわかる。 10月の統計)減少しており、 点プロジェクトに掲げ、 点的に人口対策をしても効果が (平成26年10月から平成30年 かし、人口は4年間で1049

> 見直しはしない。 値ではなく、

のではないかと懸念する。 とは計画自体に不都合が生じる ことだが、 八口目標などは見直さないとの また、観光立町の町としては、 後期基本計画では、基本構想・ 人口目標を見誤るこ

が重要であると考え質問する。 で利用できないことは致命傷で 北へ抜ける道がすべて通行止め しっかり後期へ反映させること 前期の検証結果を

付けておくべきではないのか。

課題は。 固 検証の結果、 見えてきた

災へのさらなる強化・充実が必 要と考える が発生しているため、 想定外の自然災害 防災・減

含まれる

いるのか。 あると思う。 抜ける道がないことは致命傷で 固 観光立町としては、 町長はどう考えて 北へ

に間 と考えている 抜けていたほうが利便性が良い 観光的には、 総合計画にしっかり位置 県の道路構想に絡む 北へ道路が

甲府線」 北山中湖線」 位置付けていく。 的な幹線道路網の整備」として 固 その分野別計画には 分野別計画の中に も含まれるのか。 (仮称) 「広域 山

再実現に向け、 コールを送ったらどうか。 山北からラブ

とに話をしていきたい。 いしたことがある。 隣の町同士なので機会あるご 道志村長とは何度かお会

> ら撤退して、高齢者や車を運転 されない方が困っている。手を 固 民間事業者が移動販売か

タクシー券を拡充する方

策を検討する。 差し伸べるべきではないか。



はないか。

場所など、見直しを行うべきで

周辺拠点施設に絡めて、規模や

なってきている。

スマートIC

固

道

の駅

「山北」

は手狭に

第5次総合計画の向かう5か年計画は積極的に

めている。

町おこしに繋がるよう施策を位置づける



渡辺良孝 議員

である。

向かう5年間には東京

向を決める総合計画の見直し年

今年度は、町の5か年先の方

画の策定ついては、 固 スマートIC周辺整備計 具体的に見

問する。

的な計画を策定すべきと思い質 こでは国の事業につながる積極 高速道路の開通などがある。 こ オリンピック、更には、新東名

えない。進捗状況はどうか。 画に位置づけるための調整を准 辺道路施設も具体的になってき 第5次総合計画後期基本計 本線工事に並行して、 周

も協議・調整をしていきたい。 おこしに繋がるよう、国や県と 定される。場所や、規模、 の完成後は、多くの見学者が想 地域の拠点施設として、町 河内川に架かるアーチ橋 機能

と思うが。 逆手に取った施策を策定すべき が持てなかった。ここで道路を の騒音など、 圕 当町は、 過去には道路に夢 国道246号線

> くに富士山も見える。 ネルそして御殿場線もあり、 こに名所となるアーチ橋、 そのカーブが非常に美しく、 名を含めて十一本の道路が通る。 冢が有望な観光資源として、 捉 新東名が完成すると現東 道路写真 トン 遠

都夫良野からの東名酒匂川橋

時の迂回路など必要性は認識し で進めていく。 県へ要望するなど、 ている。今後も、 計画は現時点では難しい。 答 道志・山中湖村への道路 粘り強く国 長期的視点

山梨・ 強めておくべきではないか。 時の緊急避難路確保のためにも 静岡両県とのつながりを

個 三保地域の過疎化

固 当町にスマートICの設 山 北 〈

備の促進」として、位置づけて ではないか。 後期基本計画に位置づけるべき 道志間の道路構想を再構築し、 置が決まったことから、 線名を位置づけることは難しい。 構想については、 を跨ぐことから、 「県境を越えた広域幹線道路整 答 (仮称)小田原・甲府線 複数の自治体 現時点では路

えているところは生かしていき

「健康長寿のまちづくり」の推進を

健康寿命延伸に向け、各種事業に取り組む



児玉洋· - 議員

歳以上の高齢者となり、

当町の高齢化率は38・6%を

町民2・6人に

人 が 65 2 年後

には40%を超える懸念がある。

増加は避けられず、 ついて伺う。 やす「健康長寿のまちづくり」 寿命の延伸が極めて大切である。 健康づくり事業を推進し、 今後、 推進が必要と考え、 いつまでも元気な高齢者を増 介護給付費や医療費の 介護予防や 次の点に 健康

識向上を図っては。 ガンを掲げ、 個 宣言など、 健 康 町民全体の健康意 長 ひとつのスロ 寿のまちづく

健康意識の向上につながると考 しい新たな宣言やスローガンを 「子育てのまち」 検討していきたい。 こうした宣言が町 「健康長寿のまち」 「鉄道のまち」 など、 Щ 北ら は 祝 65歳健康寿命 3年連続男女とも県内第1位 愛

もちろん、

えるので

「健康寿命県内第一位!」などのスローガンや目標を 掲げると町全体の健康意識向上が図れるのでは。

こうした個別団体の横軸連携

いる。

ティア団体が4箇所で活動して

や健

康づくり事業を行うボラン

答

町

内には、

介護予防教室

ティ が重要であると考え、 心となり、 のあり方は継続して研究する。 後 同 、効果的な介護予防組織体 士の交流を図っ 課題 抽出やボラン 行政 っている。 が中

です。毎日の健康記録といざというときの安心を スマホで楽しくカンタンに!

マイME-BYOカルテ

べんり!

かんたん!

毎日の歩数を自動で記録

スマホでお薬情報を記録・管理

いざという時に備えて 大切な健康情報を県が保管

を設定することで町民意識の 上を図っては 統計データを開 個 平均寿命や健康寿命など 目標値

定めるなど、 ても基準値の把握ができない。 は実施していないため、 指標を用いた健康寿命の数値化 り組む。 県としても、 町でも健康寿命の タ指標活用の考えはあるの 現在県では、 町民意識向上へ取 今後こうした 統 自標値を デー 町とし

考えは。 官民連携の組織体制を整備する 固 健康寿命延伸に向けた、



個別ボランティア団体の連携強化が健康寿命延伸のカギ を握る

づくり事

業

と

「介護ボラン

ティアポイント事業」を展開

ている。

組 周知に努め、 り県内施設の優待券などが抽 など、今後さらに利用しやす な機能である。 カウントし、 制度になるよう改善に努めた で当たる健康管理としては便 フォンアプリは、 また、 ポイント還元サービスの拡充 県が推奨するスマー 獲得ポイントに 参加者増加 町でも積極的 歩数や距離 取 を 選

しや携帯端末アプリなど時代に 答 個 た機能の活用を。 町 ポイント制度事業の見直 では、 健康ポイント

便利なアプリで健康管理

マイME-BYOカルラ

たしたちがメッセージで あなたの情報管理 単純な管を出来します

00

の創出に取り組む。

「元気な山北」の実現を

良好な住宅開発や基盤整備の推進を図る

第2次定住対策大綱の

答

御殿場線の増便は、

昭

年

30年以上減便はな



瀬戸恵津子 議員

期基本計画を策定中である。

将来に懸念される大きな課題が 顕著になり、重点課題に積極的 ずつ元気を取り戻しているが に取り組むと述べた。 そこで次の点について質問する 所信表明で町長は、町は少し

人口減少への対策は

今後の事業展開は。 口増につながるとはいえない 固 集合住宅を整備すれば人

何らかのつながりを持つ関係人 綱の策定準備をしている。 らスタートの第3次定住対策大 がかからない。平成32年度か の利便性の向上を図り、 30に及ぶ施策は、 良好な住宅を整備し、 000まちづくり計画をすす 人口減少に歯止め 一定の成果 地域と 東山北 交通 増便し、 様 交省へ要望に行く。 望活動に努める。 ICカードは導入されるが、 62

本数の増便はない。

生活交通の利便性の向上は

望活動をすべきでは。 場線の増便の要望が多いので要 固 JR東海に対しては御殿



東山北1000まちづくり計画水上地区

では。

ており、 多いので造成工事が必要であり 費用対効果が見込めないが、 道路が狭い事が課題。 開発公社の所有地だが、 やはり平地が少なく山林が 高松山事業用地は、 平地が少なく、 簡保跡地 地区内

未利用地の活用は

地の活用を県と共に進めるべき 高松山事業用地や簡保跡 用を図る。

固

士山 地域と連携しこの土地の有効活 マートICに近いため、 の眺望と(仮称) Щ 国 北ス 県



新東名工事の完成に期待する県立つぶらの公園付近

住民を守る視点で提案せざるを

現状では、これを公害と捉え、

ヤマビル対策の充実を

被害を拡大させないため町全体で取り組む



井上正文 議員

マビル被害の特徴は、

地域住民

平成30年度の共和地区でのヤ

固

町が、

町民に対してヤマ

数が急激に膨らんだ事であった。

6月の道草刈りでは、深沢と

に直接被害が及んだ事と被害の

被害に膨らんだ。 の環境整備では、 あったものが、9月では6人程 鍛冶屋敷では数人程度の被害で そして9月後半の福祉バス 10人を超える

する住民の声がヒートアップ になっていた」「畑にでられな かもしれないが、この被害に対 れた人も出てしまった。もちろ とっつかれた人や20か所もくわ 大変大きな声になっている。 防御の仕方に問題があった 回の作業で5匹も6匹も 「庭の草むしりもできな 「長靴をぬぐと足が真っ赤 「何とか助けて欲しい」と

では。 は来させない対策をたてるべき 被害が出ている

周知する。 除剤の散布の重要性を引き続き 議や座談会など、 を無料配布し、連合自治会長会 は理解できた。駆除剤や塩カリ が入ってきたスピードについて 地域ぐるみでの草刈りや駆 あらゆる機会

固 共和でストップさせて町内に 屎、 清水、 共和に人的

共和の各地区にヤマビル

どについての普及啓発を積極的 に取り組む。 の生態や予防の仕方、 説明会や研修会等で、 発する必要があるのではないか ビルの正しい対処方法を普及啓 答 広報紙やホームページ、

野の取り組みについて検証する 当に良いのか。厚木、愛川、 られたら来る人が減ってしま 必要があるのでは。 う」と考えがちだが、それで本 固 ハイカーに対して、 知 秦

べきだが。 山北町民総力を挙げて取り組 答 固 町全体で取り組んでいく やまつきの問題にせず

対処法な ヤマビル

地域の道草刈り



人に吸血被害

の配布は検討する。

ヤマビル退治に必要な機材

被害をこ

情報提供や、 看板を設置する事や、 忌避剤の設置に取り組む。 町ホームページ等による 登山道の入り口に 駆除剤の る。 案件だ。県に対しても支援の強 れ以上に拡大させない努力をす 化を引き続き要望し、

さいきひろぼ

共和地区親睦ゲートボール大会実行委員会

第3回共和地区親睦ゲートボール大会開催

この間、 年から開催し、 共和地区住民の親睦を図るために昭和 1チームを5人から4人に減らし 今回で36回を迎えました。

て試合時間の短縮を図り、第1ゲート通過

悪く、事務局は危機感を抱きましたが、 重ねてきました。しかしながら第35回の記念大会は申込み状況が で1打ごとにアプローチを短くする特典を設ける等様々な工夫を 「初心を忘れないこと」

て伝統を生かすことを山﨑実行委員長が強調されました。 更に進 「発足当初の思いを再確認すること」これをもとに、時代に即

化も必要であろうと思います。

のチームにも、 グループの勝者が優勝決定戦を行いました。表紙の写真はその コマです。第36回大会優勝は スムーズにエントリーされ、4グループに分かれて試合をし、 第36回大会は11月11日開催、 第 3 位 「足柄のロッキー」、 趣向を凝らした賞を贈呈しました。 「新東名A」、 20チーム80人(5歳から97歳) 第4位「まんぷく」。その他 準優勝 「はじめの が



委員 江上 徹さん

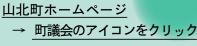
傍聴においでください

第1回定例会(予定) 3月1日(金)~

庁舎内テレビでも放映しています

お問い合わせ 議会事務局 75-3653

議会ホームページ







副会長 委 会 長 員 熊 藤 玉 上 澤 正 洋 友 文 子

広報分科会

庄瀬 児井 野 恵津 京 子

編 集 後

タートの年となります。 なります。議会でも4月に選挙を迎え新しいス るため、また新たな年のスタートを迎える事と 今年は平成が終わり、 元号が変わる年でもあ

成少数で否決となりました。 提出されました。議会では、13名の議員で特別 委員会を設置し審査を行いました。結果は、 員選挙の実施を目指すことを求める」請願書 議会議員の定数2名削減と来春4月の町議会議 この内容は、議会だより196号と昨年12 さて、12月定例会では、町民による「山北

ができます。 真で読んでいただける、 ており、ホームページの会議録の中で見ること にリニューアルされたホームページに掲載され 広報分科会では、 研修会を受け、見出しや写 わかりやすい文章で伝

いいたします 意見やご感想をお寄せくださいますよう、 わる紙面づくりに取り組んでまいります。 また、議会だよりやホームページに皆様の御 お願